

資料 7

提	1
総 会	1 9 1

提 案

「声明（案）「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」に対する声明
～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続けるために～」について

1 提 案 者 会長

2 議 案 標記について、別紙に基づき承認を求めること

3 提案理由 「声明（案）「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」
に対する声明～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続ける
ために～」
について承認を求めるものである。

声 明（案）

「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」

に対する声明

～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続けるために～



令和6年（2024年）4月23日

日 本 学 術 会 議

この声明は、日本学術会議第 191 回総会において決定したものである。

「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」に対する声明（案）

～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続けるために～

令和6年4月23日

現代社会において、人類は、気候変動、新型コロナウイルスによるパンデミック、武力紛争をはじめ深刻な危機に直面し、学術がこれらの課題の解決に向けて果たすべき役割は、ますます大きくなっている。そこで、日本学術会議は、令和3（2021）年4月22日に「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」（以下「より良い役割発揮」という。）を公表し、これまで以上に適切に社会的要請に応えるべく、精力的に取り組んできている。

これに対し、政府は、令和5（2023）年12月に「日本学術会議の法人化に向けて」（以下「内閣府特命担当大臣決定」という。）を決定した。さらに、その具体的な検討を進めるため、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の下、組織・制度ワーキング・グループ及び会員選考等ワーキング・グループの2つのワーキング・グループ（以下「検討WG」という。）を設置する旨を決定し、令和6（2024）年4月15日、組織・制度ワーキング・グループの第1回会合が開催された。

日本学術会議は、いかなる改革も学術の発展に真に資するものであるべきという観点を堅持する必要がある。そのため、検討WGにおいて引き続き議論を深めるとともに、日本学術会議が社会から求められる役割を十分に発揮できるような検討が行われるよう、その議論に主体的に参画することとした。

日本学術会議がその役割を果たすためには、設置形態にかかわらず、「より良い役割発揮」に示した5要件の制度的保障が不可欠である。この5要件は、ナショナル・アカデミーとして備えるべき要件として国際的に広く共有された考え方である。令和5（2023）年12月9日に開催した第190回総会において、日本学術会議は、声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方－自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて－」¹を決定し、主要な懸念点を指摘したところである。しかしながら、その後の内閣府特命担当大臣決定では、当該総会²で示した懸念点が解消されたとは言えない。そこで、日本学術会議は、政府における今後の具体的な検討において、特に次の点が充たされる必要があることを改めて表明する。

第1に、改革は、日本学術会議のより良い役割発揮につながるものでなければならない。政府への勧告機能も含む実質的機能を確保するとともに、それを支えるための国家財政支出を中心とした安定した財政基盤が保証されるべきである。

第2に、組織・制度については、政府からの自律性・独立性を担保することが重要である。

¹ 令和5（2023）年12月9日 日本学術会議第190回総会

² 日本学術会議第190回総会資料6

また、迅速で柔軟な活動を確保するためには、高い透明性を堅持しつつ、日本学術会議の目的、機能、規模等に比例したガバナンス制度を維持すべきである。すなわち、日本学術会議として、学術の性質を踏まえたガバナンスが重要であると考えらる。

第3に、会員選考等については、日本学術会議が自律的・独立的に行い、その方法は日本学術会議が決定すべき事項である。高度な専門性を備えた優れた科学者を選考するために、コ・オペレーション方式及び会員による会長の選出が不可欠だからである。第27期の会員選考も同様である。

学術は、国家及び人類の発展に不可欠な基盤であり、日本学術会議も含め、主要先進国では、国を代表するアカデミーが、時々の政権や政治的・社会的・宗教的諸勢力からの独立性を保ちながら、科学的な見地から問題の発見と解決法を提示してきた。日本学術会議は、その軌跡に鑑み、万が一にもその75年にわたる歴史が途切れることなく、社会から求められる役割を十分に発揮できるよう、主体的に社会との対話を進めつつ、政府との継続的かつ建設的な協議を求める所存である。

以上